

平成30年度第1回徳山中央病院地域連絡協議会 議事概要

【日時】 平成30年7月24日（火） 19：00～20：00

【場所】 JCHO徳山中央病院本館8階第2会議室

【次第】

1. 開会挨拶
2. 委員紹介
3. 議題
 - (1). 徳山中央病院の現状報告
 - (2). 救急外来の状況について
 - (3). 地域包括ケアシステム推進への取り組み
 - (4). 入院支援センターの報告について
 - (5). 各委員からの要望等について
 - (6). その他
4. 閉会挨拶

【出席者】

大西 輝政	(周南市役所福祉医療部長)
津田 廣文	(徳山医師会会長)
蔵田 聡	(徳山歯科医師会会長)
久村 信幸	(周南市立新南陽市民病院事務局長)
松村 紀文	(徳山医師会病院事務局長)
北村 則和	(周南市社会福祉事業団事務局長)
田中 義啓	(周南市自治会連合会会長)
前田 瞬	(徳山大学福祉情報学部講師)
那須 誉人	(JCHO徳山中央病院院長)
齋藤 満	(JCHO徳山中央病院副院長)
沼 文隆	(JCHO徳山中央病院副院長)
松浦 義則	(JCHO徳山中央病院事務部長)
小阪 マリ子	(JCHO徳山中央病院看護部長)

【欠席者】

中嶋 裕	(山口県周南健康福祉センター所長)
西村 正広	(徳山薬剤師会会長)
三浦 哲哉	(周南市社会福祉協議会事務局長)

【議題概要】

1) 徳山中央病院の現状報告

- ・29年度の診療実績を27年度、28年度と比較しながら報告した。

2) 救急外来の状況について

- ・平成29年度救急外来およびこどもQQの状況について報告した。

29年度夜間の救急外来へ18,355人来られている。

28年度と比較して、受診患者数+3.3%だが、救急車数+11.6%、入院患者数+15.8%で、重症患者が増えている。

- ・ゴールデンウィークは、1日あたり救急外来約100人、こどもQQ約70～80人が受診された。

3) 地域包括ケアシステム推進への取り組み

- ・周南二次医療圏の状況、当院の地域連携室、広報誌の紹介、転院、退院状況について説明した。
- ・周南二次医療圏の人口について、75歳以上の割合が2025年には20%を超える。周南市の在宅医療・介護連携イメージから、医療機関の医療機能の分化として、高度急性期、急性期、回復期、慢性期と色分けをして、それぞれが連携をとっていかないといけない。
- ・病院方針として、『断らない』方針でやっているが、救急のトリアージⅢ、Ⅳ（軽症）が増えている。

今後の課題について、回復期、慢性期の病院とさらに連携していかないといけないが、今後、高齢な方が増えてくると、老人保健施設、訪問看護ステーションともどのように連携を取るべきか考えている状況である。

4) 入院支援センターの報告

入院支援センターについて報告した。

<目的>

28年4月から予約入院の患者さんのオリエンテーションをおこない、患者さんやご家族の疑問や不安を取り除き、安心して治療や検査を受けていただくことを目的として入院支援センターを開設した。

<業務内容>

看護師5名、事務員1名、薬剤師1名で構成しているが、必要に応じて、管理栄養士やソーシャルワーカー等様々な医療職が患者さんにかかわりを持っている。

看護師は、入院生活で、検査や治療について説明して、事務員は、入院時に必要な書類や入院費について対応し、入院時の必需品をレンタル出来ることも入院前に説明している。

薬剤師においては、アレルギー歴や服用されている内服薬を確認して、予定されている手術や検査についても数日前から服用を中止していただく必要があるものについて、入院前に指導させていただいている。

開設から2年が経過して、対象診療科は9科と増えている。

1年目の前年度と比べると200%増ということで、1,300人に対応することが出来ている。

今後も1人でも多くの患者さんに、入院支援センターを通じていただいて、安全に入院出来るシステムを作っていきたいと考えている。

28年度開設時は、眼科の患者さんから始め、1年目は670人と予定入院患者数の10%しか対応出来なかったが、29年度は診療科が増えていき、1,326人となったが、まだ、予約患者の20%の対応である。

今年度は、4月、5月の実績で27%の対応だが、目標として1,800人の対応が出来ればと考えている。今後、退院支援にも力をいれていきたい。

5). 各委員からの要望等について

(質問)

現状報告と地域包括ケア推進への取り組みの説明の中で、単年度で在院日数がかなり短縮されて、このまま11日になりそうな感じだが、平均在院日数がこの3年間で短くなったのは、医療連携が進んでうまくいっているのか他院への紹介がうまくいったのか要因があれば教えてほしい。

(回答)

地域連携室で、他院との連携が進んだことも1つの要因、さらに各科の多い疾患について、各科の医師、看護師等と見直しをおこなったことも大きな要因である。

平均在院日数は、どこまで短くなるかという具合が悪い場合は退院させるわけにはいかないなので、この地域では、12日ぐらいまでで落ち着くと思う。

脳卒中と大腿骨頸部骨折の地域連携パスがあり、次の病院へ繋ぐことも大きい役割を担っている。

(質問)

連携パスの種類も年々増えているのか。

(回答)

まだ余り出来ていないが、今後、色々な疾患に広がっていくのではないかと思います。

(要望)

看取り介護加算の立ち上げに際し、循環器内科の先生や医事課の方へお世話になった。

今後も続くことなので、ひきつづき、協力願いたい。

(回答)

看取りについておこなっていただくとこちらも助かるので、協力していく。

(要望)

徳山中央病院は、年間通じて病床利用率があまり変動していないが、当院では、6月～8月が落ちる状況にある。原因を調べているが、整形外科医の常勤医がいないことも影響していると思うが、紹介等で協力をお願いしたい。

(回答)

協力していく。

(質問)

働き方改革が話題だが、当院では有給休暇取得率が約57%だが、徳山中央病院ではどのぐらいか。

(回答)

調査結果、当院全職員14.5%

(回答)

働き方改革で、医師の超過勤務時間について厳しくなると、他院にお願いすることが増えると思われる。

(質問)

救急搬送は増えているが、トリアージが低い説明だったが、どんな要因か。

(回答)

昔から2次救急をやっていたが、1次救急を診る所が無かったので、それがたらいまわしの原因になる。

重症の患者さんは余りたらいまわしにならないが、軽症、中等症の患者さんが、重症化することが恐ろしい。

そのようなことから、全てを受け入れてトリアージしていかざるを得なくなった。

患者さんは、みなさん重症と思われて来られるのだから、夜中に不安になられたりするもので、来られることはしょうがない。

(質問)

地域包括ケア推進への取り組みの中で、紹介患者の希望に添う紹介患者の事前予約の対応とはどのようなことか。

(回答)

現在、診療科の指定は出来ても医師の指名は出来ない。

医師の指名が出来るようになればよいと思っている。

また、何日の何時に受けれるというように患者さんの待ち時間を減らすことが課題である。

(質問)

大腸ファイバーの患者さんの紹介は、消化器内科へ紹介しているが、ある患者さんから、直接、徳山中央病院に電話したら予約がとれると言われたが本当か。

(回答)

大腸ファイバー検査は、下剤を出したりするので、1度診察させていただきたい。

ポリープ等は検査中に取りることがあるが、抗凝固剤を飲まれていることがその場でわかったりする問題も出てきたり、合併症の説明も必要なので、紹介はしてほしい。

(質問)

入院支援センターが、今後、入退院支援センターへ変わっていく上で、地域連携室・医療相談室との兼ね合いはどういう役割分担になっていくのか。

(回答)

地域連携室は、後方の病院との連携になるので、入退院支援センターを通るのは、自宅退院やそこで、退院の書類を作成したり、退院時の必要な指導を行ったりすることが主になる。

今は、センターと地域連携室が離れているが、そばにあることが理想である。

(回答補足)

出来れば、一箇所に役割を集中させて、中でも連携して、医療相談でも医療の問題、お金の問題など色々とあると思うので、詳しい人が説明していければよい。

入口と出口を一連の流れが出来れば良いと思っているが、今後の課題である。

(質問)

地域包括ケア推進の取り組みについての説明の中で、医療と介護の連携で、高度急性期の徳山中央病院として、入院から退院して、自宅へという流れの中で、今の周南市の課題とは何か。

(回答)

急性期病院なので、骨折で急に来られた場合、ほとんどの方の場合、介護保険を持っていない。

例えば、老健に行ってもらおうと思っても介護保険が無ければ入れない。

市の方への要望としては、早めにいただければ病院を経由せずにそのまま老健ということも可能になってくる。

今の段階で、13 日ぐらいの平均在院日数であれば、介護保険を取ることは無理だと思う。

そのため、ワンクッションどこかの病院に入らないといけない状況である。

(意見)

退院前にケアマネージャーがついて、認定調査員が病院へ行くという形でも 30 日以上かかるという現状である。

(回答)

ソーシャルワーカーも診療報酬で入院して 3 日以内に接触することとなっている。

その中で、退院困難な方を抽出することになっているので、早めにソーシャルワーカーが関わって、老人施設と連携を取るには、いかに介護保険を早くいただけるかということと思う。

(要望)

(7 月 7 日、8 日の) 豪雨で、周南市においては、一部を除いて問題なかったが、櫛ヶ浜地区の大華山ではかなり崩落した。

自主避難や避難指示等により、避難所に 20 世帯近く 30～40 人避難してきた。

今回のことで、ケアマネージャーとの連携を自主防災組織の中に入れておかねばいけないことと近くの開業医さんとの連携も必要だと思った。

災害支援についても今後は色々と協力してほしい。

(回答)

DMAT 等の災害支援や災害対策のシミュレーションは多くやっているが、西館棟が未耐震のままなので、耐震化して医療を継続していきたい思いは職員全体にある。

それから、避難場所に使える場所はとっているのですが、何かあれば利用していただきたい。

医療の提供を継続していくことは、我々の使命であります。

6). その他

特になし

以上